

未来を創る 朝鑑賞

東御市小中学校での取り組み

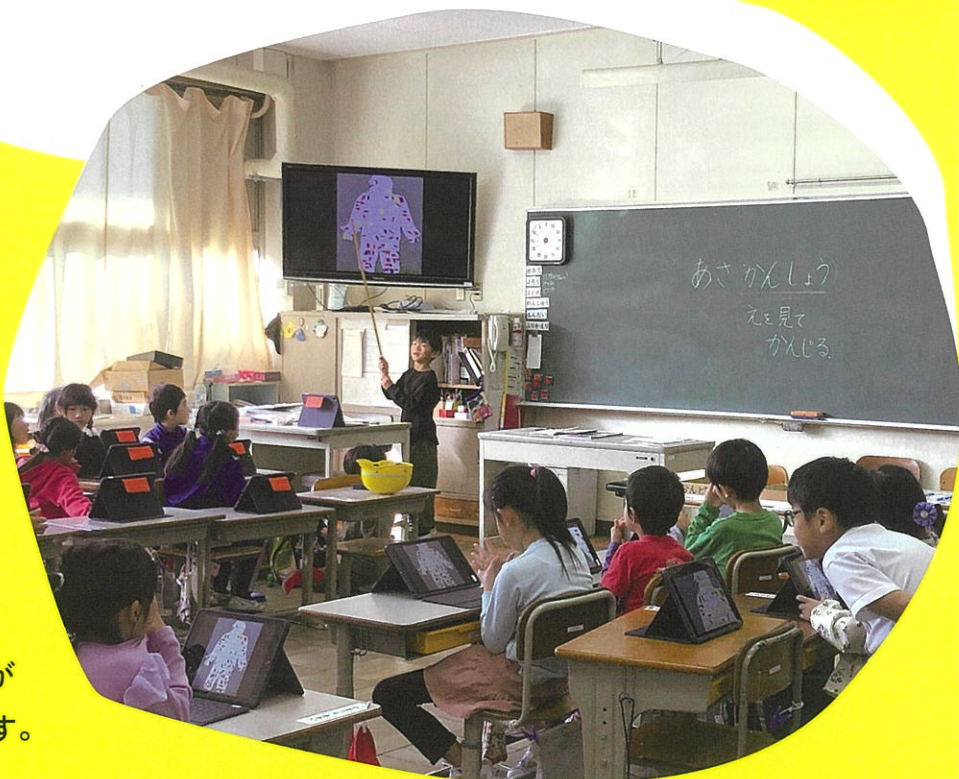
令和5年度から、
「朝鑑賞」という活動がはじまりました。

朝鑑賞とは？

朝鑑賞とは、これまで読書や
ドリルを行っていた朝の短い時間で
美術鑑賞を行うことです。

この朝鑑賞の時間では、“対話鑑賞”
という手法を用い、学級担任の先生が
進行役となって作品を鑑賞しています。

“絵を見てそれぞれ感じたことを、
自分の言葉で伝え、友だちの意見にも耳を傾ける”
つまり、絵画を介した、クラスでのコミュニケーションの活動です。



和 小 学 校



●宮下聡校長

朝鑑賞の時間が始まる5分前から、もうスタートしているクラスがたくさんあります。子どもたちの「朝鑑賞って楽しい!」って声が聞こえてきたときはうれしかったです。

●2年竹組担任 田中ひかり先生

子どもたちが自由に発言できるように、まず近くの子と話す時間を設けてから全体で話すようにしています。

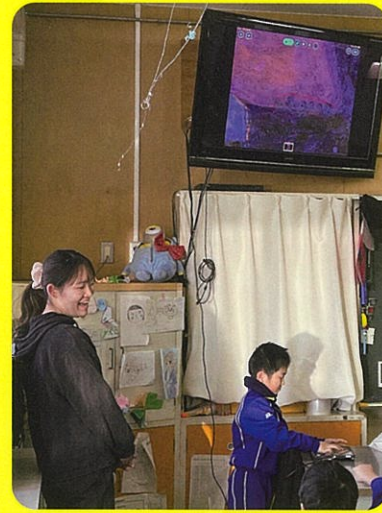


Q:子どもたちの印象的な反応は?

A:活動前日の「明日朝鑑賞ある!楽しみ!」という声や、終わった後の「朝鑑賞超たのしい!」という声印象的です。また、「先生、時間が短いからもっと長くて」という声があり、次からは活動をはやく開始するようにしました。

Q:クラスの変化は?

A:友だちの気づきや考えに対して「たしかに」「ほんとうだ。そう言われると見えてくる」など他の考えを受け入れる姿や、「○○さんは～と言っていたところが私は～見える」など他の友だちの意見を受けて自分の考えを話す姿があり、周りの子話をしっかり聞いて考えるようになったと感じます。



それぞれの学校で、平均月2回のペースで行われている朝鑑賞。教室ではどんな様子が見られるのでしょうか?

● 学校での様子

北 御 牧 小 学 校



●3年松組担任 森 柚香 先生

朝鑑賞では、誰もが自由に思いを伝えられる時間・場所になるように心がけています。

Q:子どもたちの印象的な反応は?

A:新たな視点を見つけるのが、とにかく面白いといった様子の子も。誰も気づかなかったような視点から意見が出された時の驚きの声、納得の声にこちらも嬉しい気持ちになります。

Q:クラスの変化は?

A:子どもたち同士の関わりが温かく、穏やかになったと思います。友だちの発言や作品に「それいいね～」「面白い!」と言った前向きな言葉が飛び交うようになりました。自分を表現することに自信がついてきたとも感じています。

●徳高隆治校長

朝鑑賞の面白さは、クラスメイトの様々な視点が交わることで最後に作品の見方が変わるところです。教室の様子を見ていると、子どもたち同士ともに考える姿勢が身に付き、肯定的で穏やかなやり取りが増えてきました。また、図工の制作の場面で表現の幅が広がっており、朝鑑賞で多様な作品に触れていることの影響も出てきたように感じます。「子どもたちの新しい一面が見られるようになった」という教員の声もありますので、今年度の取り組みを踏まえて、北御牧小学校らしい朝鑑賞を続けていきたいです。



●鹿取ちか校長

本校では春から朝鑑賞に取り組んでいます。突拍子もない考えや見方も絶対に否定されず全部肯定的に受け止めてもらえるので、回を重ねるごとに「新しい発見をしよう!」「友達とは違うように見えた!」と誰もが自信を持って個性を発揮した発言できるようになったと感じます。また、先生たちは児童のことを想いながら鑑賞する作品を選んでおり、子どもたちと先生の心の繋がりが感じられる時間にもなっています。

以前6学年ではクラス合同で朝鑑賞に取り組んでみました。普段関わりが少ない子ども同士と一緒に朝鑑賞をすることで、友だちの輪が広がり、新しい目も開けていくのではないかと感じたので、今後は異学年交流の場などでも取り組んでいきたいです。

小 学 校



ナビゲーター 山崎麻由

東御市地域おこし協力隊。
朝鑑賞のコーディネーターをしています!



滋野小学校では、5月に学芸員による朝鑑賞も実施しました。その様子はこちらからご覧いただけます。



●6年2組担任 小井土恒先生

発言の中の多様な視点や気づきを取り上げ、聞いている児童に友だちの感じていることを広めていくことを意識しています。

Q:子どもたちの印象的な反応は?

教師自身が制作した作品を使って朝鑑賞を行いました。画面(画像)ではなく本物を観ながらなので、より活発に発言し、様々な気づきが出されました。そして次第に作者が目前にいることで、「どうしてそういうふうに描いたの?」「何を表そうとしたの?」とたくさんの児童が、作者の気持ちや考えを知りたいという話に発展し、いつもとは違った朝鑑賞になりました。

Q:クラスの変化は?

最初の頃は遠慮している感じもありましたが、何回も行うことで学級の取り組む積極性が増えてきたように感じられます。「もっとやりたい」という児童も増えてきています。

朝鑑賞に取り組む学校の様子を伺いました。

●龍野正和校長

本校の児童は、もともと対話が好きな子どもたちだと感じます。そのような中で朝鑑賞の様子を見ていると、友達や先生と対話するだけでなく、絵をじっくり見つめて作品と対話する児童、発言はせずに作品を見た自分と対話する児童など、様々な姿が発見できました。今後は、本物の作品を使った鑑賞も考えています。私自身が本物を目の前にしたときに感じた迫力と、本物に出会うことで生まれる感動を子どもたちにも味わってほしいです。校内にはたくさんの絵画が飾られていますので、まずはそれらの作品を活用していきたいと思っています。



田 中 小 学 校



祢津小学校

●仲沢いずみ校長

これまで、自分と違う意見に対して「えー、違うよ」など否定的な言葉がありました。朝鑑賞を始めてからは、多様な意見を受け入れる姿勢ができ、「たしかに!」「本当だ!」という肯定的な言葉が聞こえるようになりました。また、毎朝昇降口で登校する児童に挨拶をする際に、しっかりと目が合うことが多くなり、対象をよく見る意識ができてきたと感じます。以前、地域の公民館で対話鑑賞に挑戦したのですが、年代や環境の垣根なく平等に話せることが対話鑑賞の良さだと感じました。今度は子どもたちが朝鑑賞での体験を家庭に持ち帰り、それをきっかけにご家族での対話も豊かになっていくと嬉しいです。



祢津小学校では、11月にスウェーデン国立美術館の学芸員を招いた対話鑑賞も行いました。「この人が一番楽しそう!」「寒そう」と、言語の壁を超えて、子どもたちが積極的に自分の意見を伝えようとする姿が印象的でした。



北御牧中学校

●高橋和美校長

朝鑑賞にはたくさんの“出会い”があります。様々な絵画との出会い、多様な意見との出会い、そして友だちや先生との出会い直しです。北御牧中学校の生徒は、保育園から一緒の子どもたちがほとんどです。そのような環境において、自由に話ができる朝鑑賞という時間が、友だちの変化や個性に改めて気が付く大切な機会にもなると感じています。生徒に聞いた感想で特に印象的だったのは、「同じ感想・印象であっても、人によって言葉や表現の仕方が違うことに気が付いた」という言葉です。様々な出会いと気付きがある朝鑑賞を通して、相手の考えを聞くことの価値と、自分の気持ちを伝える楽しさを感じてほしいです。



Q:子どもたちの印象的な反応は?

A:少女がラーメンを食べているような絵について考える場面で、ラーメンの具材を少女の顔に例えたり、絵自体を少女の精神世界や宇宙空間に例えたりと、思ったことをどんどん言う生徒たちに感動しました。

Q:クラスの変化は?

A:自由な発想で意見を言うことへのハードルが下がったように思います。朝鑑賞の時間以外でも、合唱曲の歌詞の意味を考える場面で、一人ひとりが思ったことを積極的に発言し、それらを認め合う姿が見られました。

●1年1組担任 松本和樹先生

教師の意見を述べずに、生徒の意見だけで展開していくように心がけています。また、様々な見方ができるような絵を選ぶよう心がけています。



東部中学校

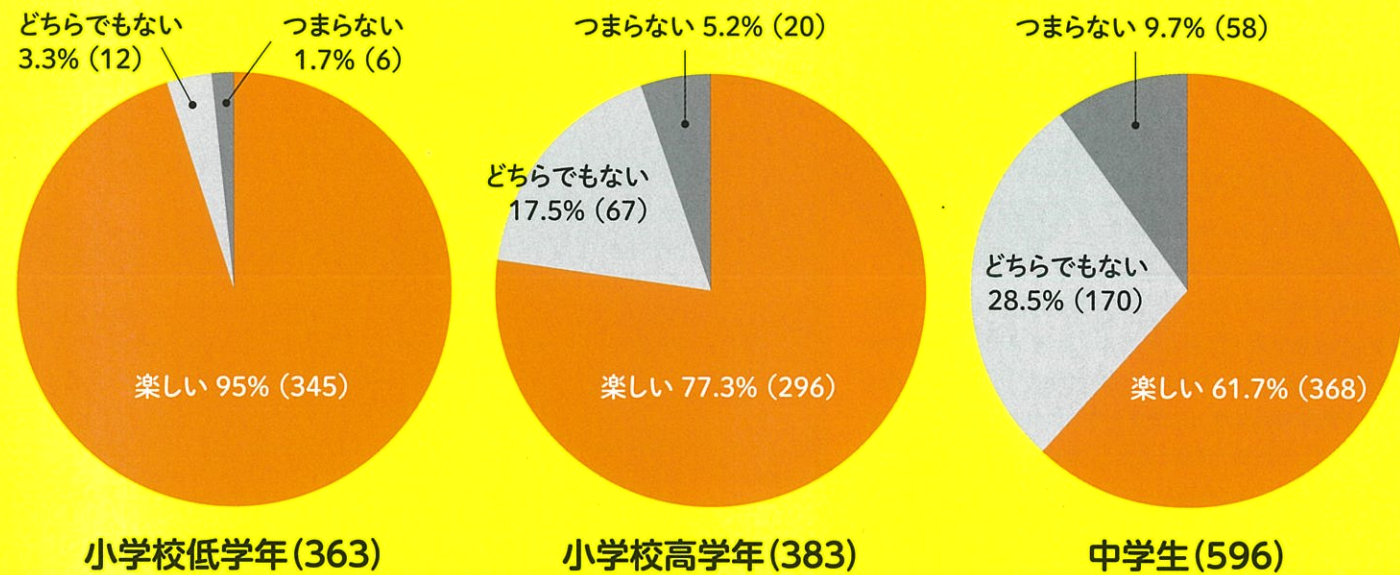


●盛野憲俊校長

以前から、学校活動において「対話」を大切にしたいと考えていました。「対話」とは、ただ話し合うだけでなく、お互いの意見にしっかりと耳を傾け、考えを深めていくことです。教員にも対話の力が必要であると感じているので、その練習の場として、朝鑑賞という大変良い機会をいただきました。朝鑑賞を通して、自分の考えに自信をもって発信していく力、友だち同士考えを認め合う力、そして自ら問いを見つけ探求する力が伸びることを期待しています。

●●子どもたちの反応

朝鑑賞は楽しいですか？



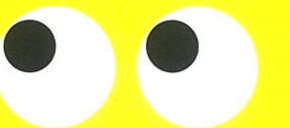
こんなところが楽しい!

●小学生

- ・朝の時間は今まで読書などと正直言って楽しくなかったけど楽しめるものができてとても嬉しい。
- ・見たことのない絵が見れて楽しい。
- ・何があるのか、何が描かれているのか想像するのが楽しい。
- ・自分が考えたこともないようなみんな発想を楽しめる。
- ・みんなのいろんな意見を聞いて、『なるほどおー』と思いつきながらできるから楽しい。
- ・何かの絵や動物に見えた時、面白い。
- ・自分とは違う考えが聞けて楽しい。

◆中学生

- ・作者のそれぞれの個性がわかるところが楽しい。
- ・みんなで考えた方が、意見がたくさん出るので楽しい。
- ・その絵を見た時の印象が自分と他の人とで全く違って、こう言う解釈もできるんだあと思った。
- ・みんな違ってみんないい。
- ・想像力が広がるから。



なぜ東御市で朝鑑賞が始まったのか

7つの小中学校

美術館

近年、学び改革の下で主体的対話的で深い学びが求められ、子どもたちが主体的に考える能力を養う“対話鑑賞”が改めて注目されています。

東御市に2つある公立美術館では、16年前から”対話鑑賞”に力をいれ、授業時間を活用したプログラムも実施してきました。そのノウハウを持つ美術館、7つの小中学校、行政が連携し、市一斉の朝鑑賞が始まりました。

行政



ICT機器を活用した美術鑑賞

約100点以上の絵画作品が、画像データで学校全体に共有されており、教室では、ひとりひとりのタブレットと教室のモニターにその画像を映し出して鑑賞しています。



拡大して細部まで観察することも



担任の先生がファシリテーター

朝鑑賞の時間に子どもたちと一緒に作品を鑑賞するのは、美術館の学芸員ではなく学校の先生。「どうしてそう思ったの?」「面白い見方だね!」と子どもたちの自由な発言を促していきます。



クラスによって、鑑賞する作品や方法は異なります。これまでどんな作品を鑑賞したのか、ぜひお子様に聞いてみてください!



各学校でファシリテーターの研修も行いました

武蔵野美術大学教授に聞く! ~未来につながる朝鑑賞~

朝鑑賞は、他県の学校でも行われている活動です。今回は、朝鑑賞の考案者であり、旧北御牧村出身で北御牧小学校・北御牧中学校を母校にもつ武蔵野美術大学三澤一実教授に詳しくお話を伺いました。



三澤一実教授

東京芸術大学大学院修了。中学校美術科教諭、埼玉県立近代美術館主査、文教大学教育学部准教授を経て、2008年より武蔵野美術大学教授。専門は美術教育。鑑賞教育。学習指導要領(平成20年度版図画工作、平成29年度版中学校美術)作成協力者。

8年程前から朝鑑賞に取り組まれていますが、他の学校ではどのような変化が見られていますか。

2016年に埼玉県所沢市の三ヶ島中学校で始めた朝鑑賞ですが、週1回10分間の取り組みで、2年後には市内での学力テストが15位から8位に向上しました。埼玉県坂戸市の中学校でも同様の成果が見られました。埼玉県独自で行っている学力テストでは、取り組んだ学校では県平均に比べ一人一人の学力の伸び率に著しい成果を出しています。



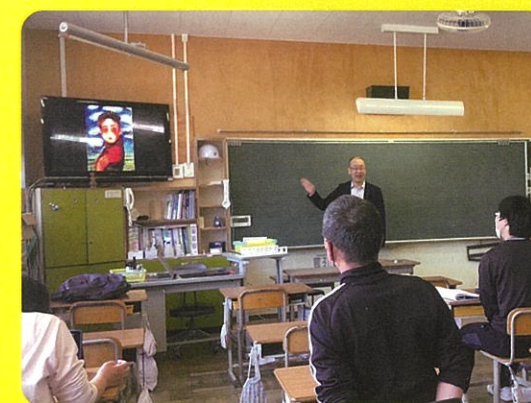
朝の10分間の美術鑑賞が学力の変化につながるというのは面白い結果ですね。全国的にも広がっているのでしょうか。

朝鑑賞で、一人一人が感じたことを自由に話し、それを皆が聞く中で、自分の考えを自信を持って話す力と、他者の話をじっくり聞く力が身につく、そのことが、深く考える力につながっています。これからの時代に必要なコミュニケーション能力の基礎が培われます。また、自分の考えを聞いてもらうことで自己肯定感の向上も確認され、不登校対策に効果があると期待されています。

現在、鳥取県が全県での導入に向け準備を始め、茨城県でも教育センターを中心に取り組みが広がっています。

東御市の朝鑑賞の良いところと今後の期待を教えてください。

東御市では行政が中心となって朝鑑賞のサポートをしている点が他の学校との違いです。そして市内の全小中学校で取り組んでいるので、取り組みの様子などの情報の共有がしやすく、成果や課題が見やすい点が上げられます。市内には2つの美術館があり、学芸員も協力体制を整えているので、取り組む環境としてはとても恵まれています。そもそも全国的に見て市町村に美術館があるのは長野県ぐらいです。美術館は世界の美術文化の窓口です。県外や国外から作家や講師も呼べますし、県内外、国内外への発信もできます。これからの時代は豊かな文化と環境を求めて人々が移住する時代です。それを可能にしたのがインターネットによる情報化社会です。人口は経済を活性化します。朝鑑賞の成果が現れるまで年単位の時間がかかりますが、その成果は20年後30年後に芸術文化が香る豊かな東御市へ向かう地域づくりの基礎となるでしょう。



朝鑑賞をさらに知りたい方はこちら

【三澤教授による説明動画】



朝鑑賞実践編 (YouTube)



朝鑑賞理論編 (YouTube)



そもそも朝鑑賞とは 考える→考えたことを 口にする



「朝鑑賞」で 学校改革

朝鑑賞のこれから

16年前から対話鑑賞を行っている和小学校長 宮下聡先生に、
朝鑑賞によって子どもの何が育つのかを伺いました。

●和小学校 宮下聡校長

朝鑑賞は、作品を見て目に飛び込んできたものを、素直に言語化してみることから始まります。すると、同じ作品を見ているのに、目の付け所が違ったり、全然違うものに見えたりしているのが分かってきます。生活経験が違うのですから当たり前なのですが、子どもたちは、その違いを「楽しい」と感じてくれているようです。朝鑑賞が求めるのは、正解ではなく、それぞれの納得です。だから、答えは一つではありません。相手を論破したり、迎合したりする必要はなく、違いが豊かなほど、盛り上がります。その経験が、「違いから学ぶこと」のよさの実感や、「分からないことがおもしろい」と感じられる、学びの基本姿勢につながっていくと思うのです。



左の大きな作品を描いた
夫婦ユニット・はらべこめがねと
宮下校長の対談動画はこちらから



アーティストと美術教師が
「対話鑑賞」を語る。
〈はらべこめがね×市内小学校・宮下校長〉

来年度も、各学校で朝鑑賞に取り組みます。
今後の動きにもご期待ください！

特集記事はこちら



culuture.nagano



市報とうみ10月号